

春日井ロータリークラブ 2017～2018年度 WEEKLY REPORT



クラブテーマ

～ロータリアンの第一歩は、まず例会に出席しよう
そして、会員同士をよく知り「アットホーム」なクラブにしよう～

会 長 : 近藤 太門 例会日 : 金曜日 12:30～13:30
副 会 長 : 加藤 久仁明 例会場 : ホテルプラザ勝川
副 会 長 : 野浪 正毅 事務局 : 春日井市鳥居松町 5-45
幹 事 : 加藤 宗生 T E L : (0568) 81-8498
会報委員長 : 古屋 義夫 F A X : (0568) 82-0265
E-mail : Ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

ふれあい緑道

本日のプログラム

2017年8月25日(金)2335回(8月第3例会)

- ・点 鐘
 - ・ ROTARY SONG
 - ・ 今月の歌
 - ・ ビジター紹介
 - ・ 食事・歓談
 - ・ 委員会報告
 - ・ 会長挨拶
 - ・ 卓話
 - ・ 幹事報告
 - ・ 点 鐘
- 司会 大橋 省吾君
近藤 太門君
「奉仕の理想」
「われは海の子」
近藤 太門君
近藤 太門君
大原 泰昭君
加藤 宗生君
近藤 太門君

名古屋清須 R C	9月5日(火) 9月6日(水) ガバナー公式訪問合同例会の為
名古屋守山 R C	9月6日(水) 浜岡原発見学の為

◎例会休会のおしらせ

- 一宮RC 9月7日(木)は休会
- 津島RC 9月8日(金)は休会

出席報告 委員長 梅村 守君

会員 54名	欠席 21名	出席率 61.1%
先々週の修正出席	欠席 0名	出席率 100%

今月の歌

我は海の子
われは海の子 白浪の
さわぐいそべの 松原に
煙たなびく とまやこそ
わがなつかしき 住家なれ

幹事報告

幹事 加藤 宗生君

次週予告

8月25日(金)
卓話 大原泰昭君

◎例会変更のお知らせ

名古屋大須 R C	9月7日(木) 9月4日(月) 合同ガバナー訪問の為 名古屋観光ホテル
名古屋栄 R C	9月4日(月) 合同ガバナー訪問の為 名古屋観光ホテル

ニコボックス報告 委員長 芝田 貴之君

○祝福の皆さん、おめでとうございます。
近藤 太門君
○春日丘インターアクトクラブの皆さんをお迎えして。
社本 太郎君
○誕生日の祝福をありがとう。屋嘉比良夫君
○誕生日ありがとうございます。名畑 豊君
○アテンダンスをうけて。加藤 茂君
○久しぶりです。松本先生。宅間 秀順君
○マクロレンズを購入しました。今後のカメラライフが楽しみです。下田 育雄君
○I LOVE インターアクト 青山 博徳君
○アテンダン表彰を受けた喜びで。貴田 永克君
○先週大変うれしい事がありました。山田 治君
○いつもありがとうございます。大橋 省吾君
○富士山に登りました。絶景でした。朽本 正樹君
○祝福の皆様おめでとうございます。
足立 治夫君 梅村 守君 岡田 義邦君
岡本 博貴君 大原 泰昭君 小川 長君

基本的教育と識字率向上月間/米山月間

例会予定	9月1日(金)	9月8日(金)	9月15日(金)	9月22日(金)
	第3回 理事役員会 11:30～ 卓話 成瀬 浩康君	祝福 卓話 下田 育雄君	第2回クラブ協議会 ガバナー補佐訪問	卓話 愛知学院大学文学部 教授 松園 斉氏

小柳出和文君 風岡 保広君 加藤 宗生君
川瀬 治通君 北 健司君 近藤 秀樹君
成瀬 浩康君 場々大刀雄君 野浪 正毅君
速水敬志君 和田 了司君

○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会一同

卓話

春日丘高等学校インターアクトクラブ顧問

松本 誠太 氏 他

春日丘高校インターアクトクラブは部員数 60 名、活動回数年間約 350 回を数える、愛知県最大規模のインターアクトクラブです。活動場所は高齢者施設・障害者施設・学童保育・児童養護施設・地域のお祭りなど多岐にわたります。活動内容は、手遊び・体遊び・工作教室・ゲームコーナー・レクリエーション会・ダンスパフォーマンスなど、ボランティア先のニーズに合わせて様々です。春日丘高校インターアクトクラブの特徴の一つは、生徒のチーフ制度です。生徒チーフがボランティア先との連絡、活動の企画、運営、反省まで行います。チーフによる自主企画、生徒による自主運営こそが春日丘高校インターアクトクラブの特徴であり強みです。このような生徒による自主企画、自主運営が生徒の成長に繋がり、春日丘高校インターアクトクラブが目指す、地域貢献を通しての人材育成に繋がっていきます。では、ここでインターアクトクラブ海外研修に参加した生徒の話です。こんにちは、海外派遣研修に参加させていただいた森口鈴花です。まずはオーストラリアへ行く前に 2 回行われた事前研修で、私が学んだことを発表します。2 回に渡る事前研修では、くり返しスピーチを行うことで、個人個人が人前で話すスキルを身につけることが出来ました。最初のスピーチでは個人の反省として緊張して声が小さいということがありましたが、回数を重ねる度に、聞いてくれている人の顔を見ながら話せるようになったり、聞きやすく話せるようになりました。人前で話すことに慣れることで、自分に自信を持つことができ、現地で実際に英語での授業を受けた時に積極的に話すことなどが出来ました。

次に現地へ実際に行き感じたことを発表します。オーストラリアへ行く前は買い物などに行った時に現地の方に黒髪だ、外国人だ、と思われたり、そのような目で見られてしまうのかな、という不安もありました。しかしそのようなことは全くなく、街中には東南アジア系だと思われる人たちもたくさんいて、多国籍国家であるオーストラリアだからこそだと感じました。また、ホストファミリーの家でもオーストラリアが多国籍国家で

あると感じました。私のホストファミリーはインドネシア人で、普段は英語を話し、時々インドネシア語を話しているように思いました。また、日本でもそうですがご飯には中華料理の餃子や、インディカ米を出してもらい、使っていた箸は韓国のもので、お家には日本のけん玉や折り紙もありました。その事から、オーストラリアで買えるものは日本でも買え、日本で買えるものはオーストラリアでも買えるのだと思い、いかにグローバル化が進んでいるかを改めて感じました。また、他にはカナダ人や、ロシア人の家庭もあったそうで、外国の方が日本にホームステイに来た時に日本人ではない家庭に滞在することはほとんどないだろうと思い、オーストラリアが多国籍国家であると考えられる一つの理由だと感じました。また、現地で授業を受けた時に先生や生徒が笑顔で話しかけてくれたり、簡単な英語で説明をしてくれたりなどオーストラリアの人の暖かさを感じる事が出来ました。私たちが行ったパースは美しい都市として知られているようで、実際に行き、自分の目で街の風景を見ることで、パースがそのように呼ばれる理由も知ることが出来ました。自分自身がその環境に入り、生活をする事によって、話を聞いたり調べたりするだけでは知ることの出来ないオーストラリアの魅力や、日本との違いを肌で感じる事が出来ました。また、現地の学校には 2 時間目と 3 時間目の間にリセスという軽食の時間があったり、授業が日本よりも自由で、先生が日本ほど厳しくないと感じ、日本との違いを学校でも感じる事が出来ました。最後に、このオーストラリア研修の経験をインターアクトクラブの一員として、私が生かしたいことは二つあります。一つ目は日本語の通じないオーストラリアでの現地の人とのコミュニケーションの取り方を、私たちが普段活動で関わらせていただいている障害が重度で言葉によるコミュニケーションが難しい利用者さんとの関わり方に活かすこと。二つ目は、人前で話すスキルや積極性を私たちが活動先で行っている手遊びや工作教室などで活かしていくことです。

祝福 会員誕生日



祝福 アテンダンス表彰



中部大学春日丘高等学校
IAC顧問 松本 誠太先生他

